

野生動物の保全と管理

自然・環境科学研究所 森光 由樹



キーワード

野生動物保全、鳥獣管理、バイオロギング、ドローン

研究概要

バイオロギング・ウェアラブル端末や・ドローンや用いた生態研究

日本に生息している多くの野生哺乳動物は夜間に行動することが多く、行動や採食物を直接観察することは難しい。また、我が国特有の急峻な地形や深い森林などのため調査員が入れない箇所があり、このような場合には直接観察によるデータ収集は難しい。バイオロギング・ウェアラブルカメラ端末は、動物に直接取り付けて情報を収集する手法です。一方で、無人航空機システム(ドローン)は、動物を外側から観察し、遠方から広範囲にわたって情報収集する手法です。これまで、不明であった採食物や行動を、両手法を用いて大型野生動物の生態を明らかにします。

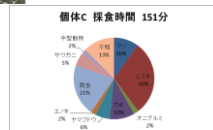


ウェアラブルカメラ端末
バイオセンサー
・温度センサー
・活動量計
・照度計



クマの
顎下
(口)

動画によるクマの採食物の判定
(広葉樹の葉)



採食物の分析

アピールポイント

兵庫県森林動物研究センター研究員と併任して研究や業務を行っています。研究センターの業務は、野生動物の生息実態調査、被害管理調査、野生動物出没対策、普及啓発、行政支援等、多岐にわたります。全国の鳥獣被害は年々増加傾向にあり関係する仕事は増加しています。大型野生動物の保護、管理、被害防除についての研究や開発は、民間、県研究機関、大学の連携で、さらに進むものと思われます。

応用分野

- ・「鳥獣の保護及び管理を図るための事業を実施するための基本指針」に必要な技術開発。
- ・特定鳥獣保護管理計画のモニタリング技術の開発
- ・野生動物の保全および管理に必要なユニット設定等。